

行動する 青年部・女性部

「66うどんでまちおこし！」

が合言葉

滋賀県愛荘町商工会女性部

グスタイルショーに出展することができました。来場者の多くは、愛荘町の名前も場所も知りませんでした。地図を準備して説明しました。また、「66」にはどういう意味があるのか」との質問も多く、「これは愛知川宿が東京・日本橋を1番目とする中山道宿場町の66番目に位置するからです」と説明。中山道の宿場町が残る町として来場者に印象を持ってもらえたのではないかと思います。

「愛荘町に行けば何が食べられますか?」。あの質問から1年が経ったこ

から教えて66番目の宿場町として発展しました。

特産品開発の出発点は「愛荘町では何が食べられますか?」

愛荘町商工会女性部では平成21年、

食の安全・安心と地元農業の展開、地産地消の支援などに貢献できる特産品を開発していこうと、農商工連携人材育成事業に取り組みました。研修の一環として県外の先進地を視察したときのことです。「愛荘町を訪れると何が食べられますか?」と質問を受けました。参加部員はうつむいて黙り込んでしまいました。それが「66うどん」開

発の出発点です。

2町の合併による効果を活かして愛荘町をブランド化させる。

それを大前提として愛荘

町のやまいもを使い、「66」をキーワードにした特産品づくりに取り組みことになりました。翌年、全国展開支援事業を活用して「66うどん」「66山芋ぼうろ」「66ようかん」を開発。23年2月には、その3商品を持って、東京ビッグサイトで開催されたグルメ&ダイニン

琵琶湖の東部、湖東平野の中心に位置する愛荘町は平成18年2月、愛知川町と秦荘町が合併して誕生しました。この愛荘町の地域資源には「秦荘のやまいも」と「中山道愛知川宿」があります。

秦荘のやまいもは、長いもなどと比べて水分が少なく、すりおろしても白さは変わらず、箸でまとまるほどの粘りがあります。良質のたんぱく質やビタミンB、Cが豊富に含まれており、昔から「秦荘のやまいもは薬になる」と言われて重宝されてきました。中山道愛知川宿は、愛知川の渡し場として発達した集落で、歴史も古く、日本橋



竹中仁美部長（前列中央）をはじめ、部員らが一丸となって取り組む

66 うどんの贈答セットも用意



粘りが強く栄養価の高い秦莊のやまいも

「ご当地グルメ大会で数々の賞を受ける」

「売るもの」は何とかできあがりしました。23年度は、より「地域を売る」ことを目指して「愛荘町ブランド化プロジェクト」をテーマに、若手後継者等未来創造事業に取り組みました。

食文化による観光まちづくりが注目され、B級グルメやご当地グルメの開発が全国各地でブームになっていきます。そこで、愛荘町商工会女性部では、

66うどんの創作料理「愛荘66うどん」をご当地グルメとして売り出そうと、県内外のイベントや催事に積極的に参加しました。中には順位を競うものもあり、「滋賀B級グルメバトル」では4位、「全国ご当地うどんサミット in 滋賀」では準グランプリ、「近江いきいきハイマルシエ」では優勝。

こうした輝かしい成績を収めることができたのも、愛荘町と66うどんが広く浸透してきたことの現れだと感じています。女性部員を中心に取り組んできた地道な活動が実を結び、そして多くの方のご協力のおかげでここまでくることができました。

着地型観光商品の開発へ

これからは、住民主役の着地型観光が地域再生のキーファクターとなっていきます。

愛荘町の観光は、中山道と湖東三山の2本の主軸からなる観光構造により、通過型観光になりやすい傾向にあります。そこで66うどんをはじめ、女性部が今まで取り組んでき

全国うどんサミットに参戦、準グランプリを獲得！



た事業を通じて愛荘町のよさをどんどんPRし、着地型観光につなげていこうと思っています。合わせて、旅行商品や体験プログラムの開発を課題として取り組んでいく予定です。

これからも女性部が中心となり、商工会、行政、そして愛荘町全体を巻き込み、「愛荘ブランド」を全国に発信していきたくと考えております。「66うどんでまちおこし」を合言葉に「食」によるまちづくりを目指し、進化していく愛荘町をこれからも温かく見守ってください。